

現地活動記録_参加者:久米、Ms.Wilma

2024年	活動	宿泊地
2月16日(金)	・東京羽田からマニラへ移動(ANA)	マニラ
2月17日(土)	・マニラ(AM8:05)からカガヤンデオロ(Am9:30)へ移動 ・Lantud村を訪問し1000本のアバカ植樹状況を確認(主な活動①)	カガヤンデオロ
2月18日(日)	・マライバライ市のCan-Ayan村を訪問(主な活動②) ・Flowing Grain社のBobbyさんを訪問	カガヤンデオロ
2月19日(月)	・ATI(農業訓練施設)の訪問と校長などと協議 ・養殖池の視察(主な活動③) ・協力者たちとの交流(主な活動④)	カガヤンデオロ
2月20日(火)	・休養日、活動メモの清書、本通信の作成など ・WilmaさんはTESDA業務のためマニラに移動	カガヤンデオロ
2月21日(水)	・TESDA地域事務所を訪問_局長のDan Navarro氏と面談 ・Flowing Grain社のBobbyと協働(主な活動⑤)	カガヤンデオロ
2月22日(木)	・ホテルにて株PASCの平常業務の遂行	カガヤンデオロ
2月23日(金)	・カガヤンデオロからマニラへ移動 ・Wilmaさんと協議:カガヤンデオロでの活動に関する報連相	マニラ
2月24日(土)	・活動整理及び今後の活動計画策定(主な活動⑥)	マニラ
2月25日(日)	・マニラから羽田へ(ANA)	帰国



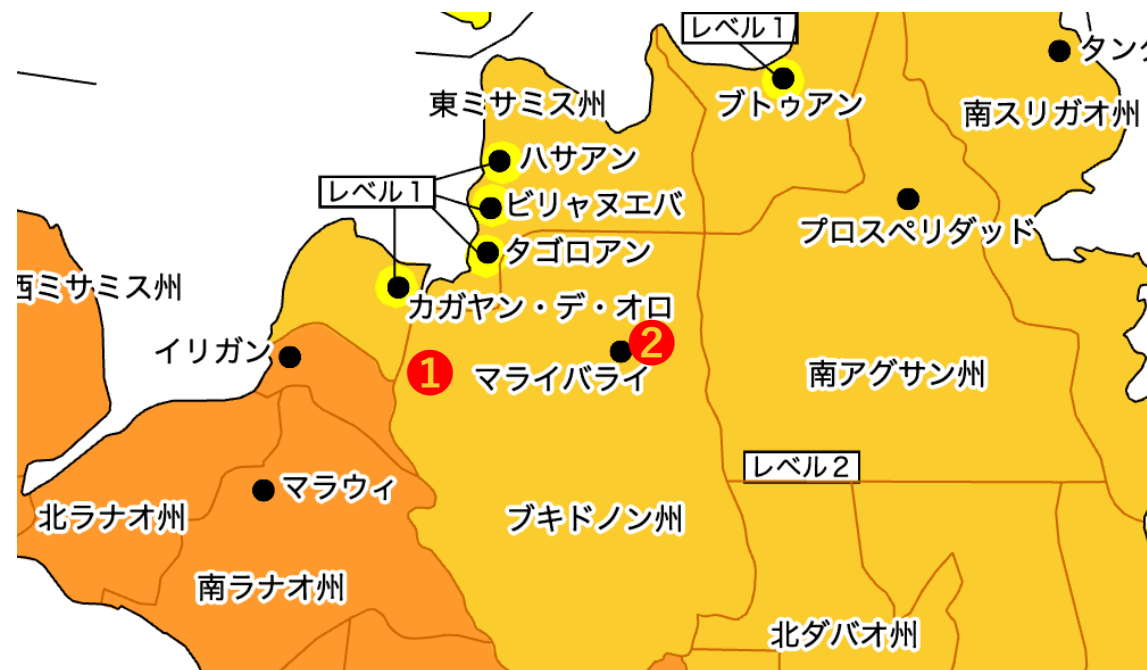
今回の活動場所及び活動を共にした人たち

1. 主な活動場所:表紙の右図及びこの右図を参照ください

カガヤンデオロ市を拠点に、ブギドノン州の山間部にある
①Lantud村や同州の州都マライバライ市郊外の②Can-Ayan村で活動しました。

2. 活動を共にした主な人たち

- Lantud村の人たち
- Can-Ayan村の人たち
- Flowing GrainのBobbyさん
- PhilFIDA地方局の局長のユージンさんと技師のマークさん
- TESDAマライバライ人材育成センターの所長レイモンドさん
- 農業省地方局傘下の農業訓練施設長及びスタッフ
ATI Center Chief: Ms. Noemi Beth G. Macario
- TESDA第10地域事務所の局長及び地域運営部長
Regional Director: Mr. Dan M. NAVARRO



地図中の①がLantud村で
②がCan-Ayan村の大まかな位置

出典:外務省ホームページ
本情報は2024年2月19日
フィリピンの危険情報【危険レベル継続】

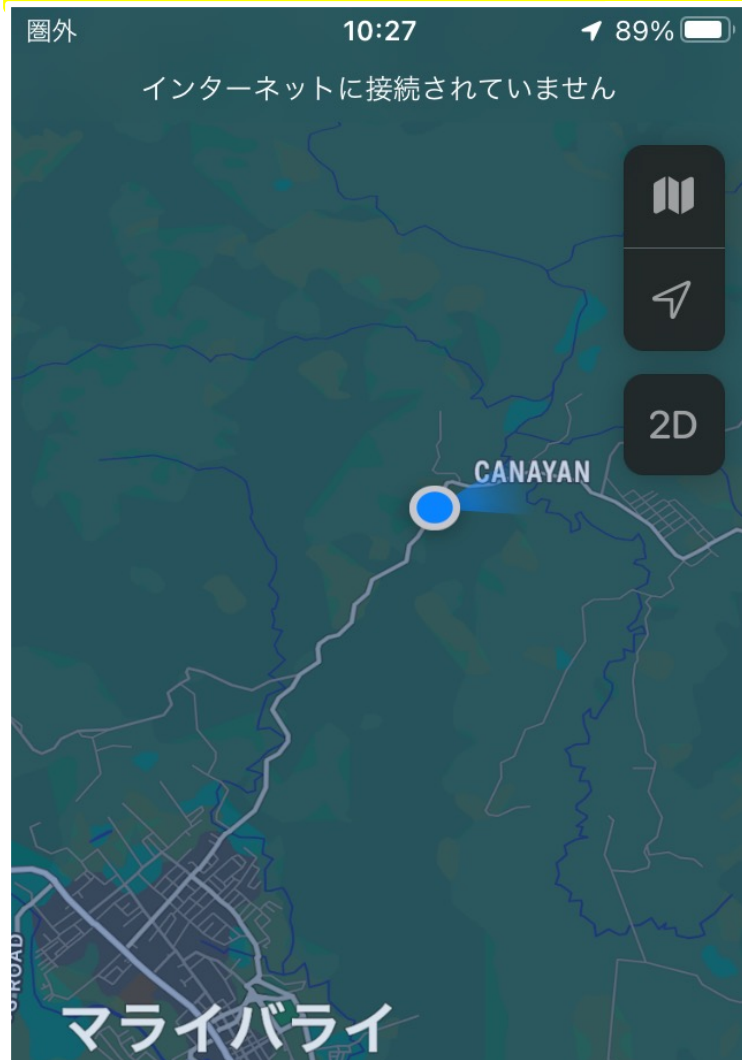
主な活動紹介① - @Lantud村の訪問



この村に1000本のアバカを植樹してもらいました。アバカの周辺が乾燥しないように、苗が根付いて背丈くらいまでは下草を残す(写真左)。あるいは、日陰を作ってくれる木の近くに植えます(写真右)。今回植樹した苗木の目印に、赤い布を付けた竹の棒が立てられていました。

初めてこの村に来たのは約2年前、この子たちは村の大人たちの慈愛に包まれて育っています。この子たちの教育や家族の生計向上に私たちの活動は大切です。

主な活動紹介② - @Can-Ayan村の訪問 ~垣間見る村の様子~



この村はブギドノン州の州都マライバライ市から30分ほど北東の山間地に位置しています。
標高は750mほどで、配電はされていますが、携帯電話は圏外で使えません。
雨に濡れながら水浴びする子どもたちの笑顔に出会いました。

主な活動紹介② - @Can-Ayan村の訪問 ~村民への訓練~



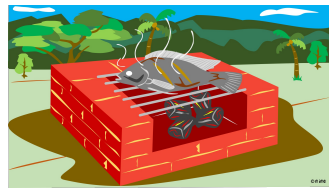
この村では共同所有の100ヘクタールに代々アバカを細々と育ててきましたが、種から苗木を育てたり、株分して苗を増やしたり、肥料のやり方、害虫駆除や防虫など新しい技術を理解している村人はいません。今回、私たちはFhilFIDAのユージンさんとマークさんが指導するこれらの指導現場に立ち会いました。この村の人たちは、ほんの数年前まで共産主義活動家として反政府側にいました。したがって、国や地方政府やらの施策から外れていました。村人に「日本人も生計向上の応援に来た」ので、親切に迎え入れてくれました。

主な活動紹介③ - @養殖池の視察

Enjoying rich nature,
rich time and life,
it's priceless!



Catch your own fish, cook it, and eat it!



池は3つあって、それぞれ1ヘクタールもある。
また、海が間近にあって、池の向こうは砂浜です。
釣り堀よりボートを借りて海釣りも楽しめます。

テラピア養殖と地方都市カガヤンデオロ市の富裕層をターゲットに「釣り堀」ビジネスによる雇用創出を計画してみました。つい最近までエビの養殖に使っていた空港近く、市内からは40分ほどのロケーションの良い候補地を視察しました。でも、水面から足元からまで高いので子供には危険です。池の周囲が殺伐としているのも残念です。時間をかけて場所を探しましょう。

主な活動紹介④ - @協力者たちとの交流



主な活動を終えて、仲間が集まって打ち上げです。ヤシガニとサンミゲルビールの為に😊

主な活動紹介⑤ - @Flowing Grain社のBobbyと協働



写真左: 農業訓練センター校長室にて、左から2人目が校長、右端はLantud村の女性リーダー
写真右: TESDA地方事務所会議室にて、中央が局長、その左が地域部長(多分総務部長)

右から2人目の赤シャツがBobbyさん、左端が奥さんのマリサさんで2人とも実業家です。
Bobbyさんは現在TESDAから3コースの訓練コースを認定された私設の訓練施設を運営おり、近い将来「アバカ生産コース」を開設するために、この2施設の認可が必要なので応援のため同席しました。

主な活動⑥_活動のまとめと今後の活動計画

ブギドノン州の先住民族等生計向上支援

活動のまとめ

- Lantud村でのアバカ1000本は確認できたが30本が枯れてきたので植え替える
- Can-Ayan村での村民との交流が始まった

見えてきた課題

- Lantud村はリーダー不在:昨年6月にスルタンと呼ばれるイスラム教でのリーダー2名が相次いで亡くなり、若い世代に交代したものの、まだ周囲の信頼を得ていません。人材不足は否めません。

今後の主な活動計画(案)

- スピンドルマシンの購入:アバカの繊維の抽出方法は伝統的な手作業(下写真の左と中央の図面)とスピンドルマシンと呼ばれるエンジン付きの機械を用いる方法があります。スピンドルマシン1台で年中稼働させると7~10ヘクタール(約7000本~10000本)のアバカ繊維の抽出の作業を賄えるようです。手作業では、マシンに比較して引き出す力とスピードの差が大きいです。生計向上にはマシンの投入が必要になってきます。
- スピンドルマシンの改良:同マシンはエンジンで振動が大きく、操作も危険が伴っています。改良にチャレンジします。
- 住民の組織化(組合の設置):マシンを導入するには農家単位では収穫量が少ないので組織化を推進していきます。
- 職業訓練コースの実施支援:農民はアバカ生産経験者がいるのですが、新しい化学的な栽培や防虫など生産性向上の訓練をPhilFIDAを介して提供していきます。
- Flowing Grain社と協働してアバカの品種や繊維の品質、抽出方法などを研究開発するラボを設置していきます。

